

2024年度（令和6年度）学校評価自己評価表

大成館中学校区	校番 81	福山市立遺芳丘小学校
最終更新日		2025年（令和7年）2月1日

I 福山市	ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
-------	--

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ・学校からの情報発信を工夫し保護者との連携を大切にしてほしい。 ・校区や各校の課題や目標を保護者・地域で共有しながら協力して学校づくりを行っていくことが大切である。 ・児童・生徒の学力向上や長期欠席生徒減少に向け、小中で連携を深めながら指導を充実させてほしい。	児童生徒の現状 ・学力の伸び調査では結果を出しつつある。全国学力調査では、すべての校区小中学校で昨年度の成績を上回ることができたが学力の定着にはまだ課題がある。 ・主体的に物事に取り組もうとする児童・生徒も多く、総じて素直な子どもが多いが、自己表現力などに課題がある。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】 ・確かな学力を身に付け、自ら進路を切り開く子ども ・自己肯定感が高く、社会に貢献できる子ども ・「主体的な学び」の授業づくりに取り組み、学力の向上を図る。 ・「自己表現」「あいさつ」に取り組み、自己肯定感の向上を図る。 ・「自分で選び・決める活動」に取り組み、自己形成力の向上を図る。
---	--	---	--

III 自 校

ミッション 主体的に学び、確かな学力を身に付け、地域への愛着と感謝の気持ちを持つ児童の育成	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像	【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】…課題発見・解決、コミュニケーション力 【主体的に学ぶ力】【自己形成力】…感謝・思いやり ・様々な思いや考えがあることを喜び、協働する子 ・進んで他者や地域・社会と関わり、よりよい生き方を創造する子 ・ありのままの自分を受け入れ、みんなの幸せのために行動する子
学校教育目標 感謝・思いやりの心を持ち、仲間と共に学び続ける子どもの育成 協働・創造・幸動	研究 テーマ 内容等	言葉と数にこだわり、学びの面白さと自らの伸びを実感し、 確かな力を育む学びづくり～国語科・算数科を中心に～ ○資料や情報を読み取る力や自分の考えを表現する力を高める授業づくり ○既習事項を確実に積み上げ、確かな力を身に付けさせる授業づくり ○児童の伸びや成長を褒め、児童の自己肯定感や学びに向かう意欲を高める。
現 状 ＜児童生徒＞ ○児童の成長を褒める取組により、自己肯定感の高まりがみられ、挨拶・学ぶ意欲や集中する姿に良い変化が見られるようになってきている。 ●学びに向かう姿や意識の向上が、学力テスト等の結果と結びついていない。 ＜授業＞ ○学力テスト等の分析から、読み取る力・書く力を高めるための授業改善への取組が進みつつある。 ○児童の伸びや成長を褒め、自己肯定感等の非認知能力の向上を支えに、確かな力を付けようとする学びづくりへと進みつつある。 ●自分の考えを持つ、言葉（話す・書く）で表現する力を高める必要がある。	めざす授業の姿	○興味・関心・意欲を持って、新たな課題を見出し、解決に向かおうとしている。 ○自己の伸びや課題を認識し、課題克服のための学びを自分で選択・決定している。 ○課題解決に向け、自分の考えを持ち、友達と協働しながら学んでいる。 ○学んだ知識や技能を、他教科や新たな学習で活用している。

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	「主体的な学 び」の授業づ くりを進め て、学ぶ意欲 と学力を向上 させる。	★	継 続	①児童が自分 の課題解決 に向けて主 体的に取り 組み、確か な力を育む 授業づくり の推進	・読み取る力、書 く力の向上、既 習事項の積み 上げ、非認知能 力の向上を意 識した単元づ くりの実施 ・自分で学びの 内容や方法を 決める授業場 面の設定や家 庭学習・生活改 善の取組の実 施 ・計算、漢字を中 心とした、毎日 15分間の帯タ イムの実施。	・国算の評価テ スト ①正答率80% 以上の児童 70%以上 ②40%未満の 児童15%以 下 ・児童 アンケ ート「自分で選 んだり決め たりして進める 授業や家庭学 習は楽しい」 90%以上 ・体力向上のた めの運動や食 について自分 で決めて取組 んでいる児童 85%以上	□国語の評価テスト ①44.9% ②6.0% □算数の評価テスト ①37.2% ②11.1% ・既習事項の積み上げや児童 の伸びを褒めるなど、教職 員で意識統一を図り授業に 取組んでいる。 □「自分で選んだり決めたり して進める授業や家庭学習 は楽しいと感じている」 87.8% ・学び方法や表現方法を 選択する場面を意図的 に設定した。 □「体力向上のための運動 や食について自分で決 めて取組んでいる」 84.8% ・目指す姿とそれを達成 するための取組みを繋 げて考えたり、給食放送 で、意欲的に取り組んで いる児童を紹介したり した。	3	2	・学力分析から見えた 課題である「読み取 る力」や「基礎学力 の定着」について、 具体的な改善策や 取組状況を学年会 や校内研修で話題 にし、交流する。 ・ねらいや単元のゴール を明確にした深い 教材研究を行い、 互いの授業を見合 い、対話を重ね、授 業改善を図る。 ・帯タイムでは、基礎 学力の定着やタブ レット端末を利用 した活用問題に取り 組む。 ・体力テストの結果分 析を行い、課題を明 確にするとともに、 体力向上に繋がる 取組を考え実践す る。 ・給食放送で意欲的に 取り組んでいる児 童を紹介するなど、 委員会活動を活用 し取組を進める。	□国語の評価テスト ①59.8% ②6.9% □算数の評価テスト ①51.3% ②13.3% ◎分析結果をもとに、課 題克服に向けた取組を 明確にした単元づくり を行い、校内研修等で交 流することで、学力定 着に向けた取組を進め ることができた。 □「自分で選んだり決めたり して進める授業や家庭学 習は楽しいと感じている」 91.6% ◎学び方や表現方法を選 択できるようにするこ とで、自ら学びに向 かう意欲を高めることが できた。 □「体力向上のための運 動や食について自分で 決めて取組んでいる」 85.9% ◎体力向上・健康増進に ついて、自分の伸びを 把握する場を設定し たり、委員会と連携し たりして、取り組みにつ いての紹介をすること ができた。	3	3	3	・互いの授業を見 合い、対話し、 授業改善を図 る。 ・課題に対する取 り組み内容を 振り返り、教材 研究を深める。 ・帯タイムでは、 基礎学力の定 着や活用問題 に取り組む。 ・児童の実態を把 握しつつ、自分 で選べる環境 や場を設定し、 自ら学びに向 かえるように する。 ・目指す姿を明確 にし、体力向 上・健康増進に 繋がる取組を 継続して行う。 ・体力テストの結 果から見られ た課題を改善 するための取 組を考え、年間 通して実践す る。
1	教 職 員 の 資 質・能力の向 上を図る。	★	継 続	①目指す授業 の実現に向 けてやりが いをもっ て、主体的 に試行錯誤 する教師力 の向上	・教師が学びの 面白さを実感 できる教材研 究や校内研修 の実施	・教材研究や単元 づくりに面白 さや、やりがい を感じている 職員70%以上	□「教材研究や単元づくりに面白 さややりがいを感じ ている」92.0% ・校内研修だけでなく、さま ざまな場で教職員が学年 や部を越えた教材や単元 に関わる対話を重ねてい る。	3	3	・「結果・分析・取組」 シートをもとに PDCA サイクルで 進捗状況を定期的 に把握・交流しなが ら、取組を進める。 ・「結果・分析・取組」シ ートに立ち返りながら、 教材研究を進めること ができた。	4	4	4	・引き続き、「結 果・分析・取組」 シートをもと に進捗状況を 把握し、学校全 体で検証し、改 善に努める。	

1	児童・生徒の自己肯定感を高める。	★	継続	②児童が安心して主体的に学ぶことができる教育環境づくりの推進	<ul style="list-style-type: none">・学びや生活場面における児童の成長を、全職員で具体的に褒める。・欠席・遅刻傾向にある児童の家庭への日常的な連携を行う。	<ul style="list-style-type: none">・児童アンケート「自分には良い所や伸びた所がある」80%以上	<input type="checkbox"/> 「自分には良い所や伸びた所がある」84.8% <ul style="list-style-type: none">・全職員で学習や生活場面において、具体的に褒めたり、面談等で児童の努力や伸びを伝えたりしている。	3	3	<ul style="list-style-type: none">・学校行事等で自他の良さを認め合う場面を設定したり、面談等で自分の伸びについて実感できるようにしたりする。	<input type="checkbox"/> 「自分には良い所や伸びた所がある」86.7% ◎様々な行事や日々の生活の中で、全職員で具体的に褒めたり、面談等で児童の努力や伸びを伝えたりすることができた。また、お互いの良さを見つけ、伝え合う場を設定し、互いを認め合う活動に取り組んだ。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none">・学校行事等で自他の良さを認め合う場面を設定したり、面談等で自分の伸びについて実感できるようにしたりする。・学習や生活面で児童自身が自分の役割を自覚し、やり切ることで自己有用感を高められるようにする。
	<ul style="list-style-type: none">・児童アンケート「学校での生活が楽しい」90%以上			<input type="checkbox"/> 「学校での生活が楽しい」89.9% <ul style="list-style-type: none">・朝のあいさつ運動など様々な場面で児童の様子を把握し、気になることを担任や関係職員と連携している。	<ul style="list-style-type: none">・「学校生活アンケート」を分析し、児童の気持ちに寄り添いながら安心して登校できる集団作り・学級作りとは何かを考え、学校全体で取り組む。	<input type="checkbox"/> 「学校での生活が楽しい」93.5% <ul style="list-style-type: none">・「学校生活アンケート」を各担任が分析し、児童の気持ちに寄り添いながら関わるとともに、朝のあいさつ運動など様々な場面で児童の様子を把握し、気になることは担任等と連携し取り組んだ。	<ul style="list-style-type: none">・学校生活アンケートや面談等をもとに、より丁寧に児童の様子を把握するとともに、児童の気持ちに寄り添った指導声掛けを学校全体で行う。								
	<ul style="list-style-type: none">・昨年度長欠児童のうち登校日数が増えた児童10名以上			<input type="checkbox"/> 昨年度長欠児童のうち登校日数が増えた児童10名以上（昨年度長欠児童のうち昨年度欠席日数の半分に達していない児童10人／昨年度14人） <ul style="list-style-type: none">・家庭訪問や放課後の補習等を通して、家庭や児童とのつながりを大切にすると共に、児童が安心して過ごせる居場所づくり考え、学校全体で取り組んでいる。・子ども発達支援センターと連携した児童理解研修を行い、児童に寄り添った指導ができるよう専門家よりアドバイスいただき、指導に生かしている。	<ul style="list-style-type: none">・児童が自分の役割等を持ち、それを果たすこと、また教職員が児童の努力を認めることを通して、自己有用感を高めていく。・引き続き、家庭や児童とのつながりを大切にし、不登校対策委員会等で具体的な手立てを考え、取り組む。・引き続き、子ども発達支援センターと連携し、困り感をもつ児童への具体的な手立てを考え、実践していく。	<input type="checkbox"/> 昨年度長欠児童のうち2学期末（年間の約75%）までに昨年度の欠席日数の75%に達していない児童は10/14人 <ul style="list-style-type: none">・フリースクールやオンラインスクールの活用、会議室での学習や給食時の登校など、自分の参加しやすい方法を選択することで、安心して登校する児童が増えてきた。	<ul style="list-style-type: none">・家庭や関係機関との連携を密にするとともに、個に合った場の設定や登校の仕方などを選択することで児童一人一人が安心して登校できるようにする。								

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。